



瀬田の丘

創刊 1973年

編集・発行／カトリック瀬田教会信徒会広報部
東京都世田谷区瀬田 4-16-1



今日のみことば

2020年9月27日 年間第26 主日A年

瀬田教会主任司祭 小西広志神父

第一朗読：エゼキエル書18章25－28節

第二朗読：フィリピの信徒への手紙 2章1－11節

福音朗読：マタイによる福音書21章28－32節

今日のテーマ：裁^{さば}いてはいけない

三つの朗読^{ろうどく}から

第一朗読にある「正しい」、あるいは「正しさ」に注目してください。捕囚^{ほしゆう}の地^{しんさん}で辛酸^つをなめ尽くしているイスラエルの民^{たみ}は、自分たちを基準^{きじゆん}にして「主の道は正しくない」と言い張^はっています。

第二朗読では3節の「考え」、6節の「思わず」に注目しましょう。実はギリシア語原文は同じことばです。よく調べた事実^{じつじ}に基づいた判断^{はんぱん}を示す場合^{しめ}に使われることばです。相手を自分より優れたもの^{すぐ}と考えられる(3節参照)のは、キリストが自分を神と等しい者^{ひと}とは思わないで、自分を無にしたから^{から}です(7節参照)。

福音朗読にある「考え直して」もここに響く表現^{ひび}です。祭司長、長老たちは自分たちこそが「正しい」と「考え」、そのことを「考え直さ」なかったのです。洗礼者ヨハネのもとに集う徴税人^{つど}や娼婦^{ちやうぜいにん}たちを見ても、彼らは何も感^{かん}じなかったのです。

説教

正しさに固執^{こしつ}し、正しさを誇示^{こじ}する人々が現代社会の中にはあふれています。誰もが自分自身が考える正しさを主張^{しゆちやう}します。主張するだけならまだしも、自分の強さ、正しさで他人を裁^{さば}っています。コロナ禍^かにあって「マスク警察」、「自粛警察」などというのはその典型^{てんけい}かもしれません。なぜ人は自分の正しさを声高^{こわだか}に叫^{さけ}ぶのでしょうか。

人を裁^{つみぶか}くのではなく、自分の弱さ、罪深^{つみぶか}さを正直^{みと}に認^めめて神に救^{すく}いを願^{ねが}うようにとわたしたちキリスト者は招^{まね}かれています。

ですから、福音にある「考え直す^{いんしやうてき}」は印象^{いんしやう}的なことばになります。声高^{こわだか}に正しさを叫^{さけ}んでも何も変わりません。正しさで人を裁^{しんてん}いても伸展^{しんてん}はありません。考えを変える、生き方を変えることが必要^{ひつやう}です。ですが、生き方を変えるのは至難^{しなん}のわざです。生き方を考え直す^{いんしやうてき}きっかけは普段^{ふだん}の人生の歩^{あゆ}みの中にたくさんあるのではないのでしょうか。自分が考え直す^{いんしやうてき}のではないのです。神さまが出来事^{できごと}を通じて考え直^{つう}せるようにしてくださるのです。

「考え直す」きっかけをくださる神さまからの呼びかけに耳を傾けていく毎日でありたいものです。

すべてのいのちを守るためのキリスト者の祈り

今月は、ミサの中で「すべてのいのちを守るためのキリスト者の祈り」をご一緒に唱えています。簡単にこの祈りの解説を試みます。

無関心を遠ざけ、
貧しい人や弱い人を支え、
ともに暮らす家である地球を大切にできるよう、
わたしたちの役割を示してください。

「愛の反対は憎しみではない、愛の反対は無関心である」といったのはマザー・テレサでした。地球規模で生じているさまざまな問題に対して片眼をつぶってやり過ごすことは可能です。しかし、あえて現実

に視線を向けることが求められているのです。

環境問題は貧困の問題と結びつきます。環境が悪化していくのはいつも貧しい人々の国や地域からだからです。

「ともに暮らす家」はフランシスコ教皇のことばです。民族、言語、国、宗教を超えてわたしたちは地球の上にとともに暮らしています。お互いの結びつきの中で生きています。人間どうしだけではありません。すべての被造物との結びつき、関わりの中でわたしたちは生きています。地球のために、環境のためにわたしたちが果たすべき役割はあるのです。

すべてのいのちを守るため、
よりよい未来をひらくために、
聖霊の力と光でわたしたちをとらえ、
あなたの愛の道具として遣わしてください。

「すべてのいのちを守る」は昨年の教皇来日の際のテーマでした。

現代社会は、分断の社会です。「いのち」と「いのち」の間にも亀裂が生じています。

保護されて大切にされる「いのち」がありながらも、見向きもされずに見捨てられる「いのち」もあります。より強い「いのち」は生きながらえ、より小さく弱い「いのち」は滅んでいきます。

「いのち」は父なる神さまから主イエス・キリストを通じて、この世に与えられたものです。人間の勝手な都合で扱われてはならないのです。「すべてのいのち」の中に神の霊が宿ります。「いのち」は三位一体の神の写し絵(イコン)なのです。

愛ゆえに「いのち」が造られたのですから、愛の力で「いのち」を守らなければなりません。人間は「すべてのいのちを守る」ための愛の道具なのです。

すべての被造物とともに
あなたを賛美することができますように。

生きとし生けるものはすべて神を讃えています。「賛美する」は被造物に与えられた務めです。花は花なりに、樹は樹なりに、猫は猫なりに、小鳥は小鳥なりに神を讃えながら生きています。

人間も同じです。被造物を管理するだけでなく、いただいたいちを使って、他の被造物と共に神を賛美する務めがあるのです。